

## 主な感染症 一覧表

\*の疾患については原則として、主治医の登園許可が必要です。

・流行が拡大しやすい感染症

病名	おもな潜伏期間	感染経路	おもな症状	休園のめやす
* インフルエンザ	1～4日	飛沫感染 接触感染	突然の高熱。倦怠感、咽頭痛、鼻水、咳等の気道症状を伴う。	発症した後5日経過し、かつ解熱後3日経過するまで。
* 百日咳	7～10日	飛沫感染 接触感染	コンコン咳こみ、息を吸うとヒューと音がするのが特徴。咳が止まらず続く。発熱することは少ない。	特有の咳が消失し、全身状態が良好になるまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで。
* 麻疹 (はしか)	8～12日	空気感染 飛沫感染 接触感染	発熱、目の充血、涙、目やに、鼻水、咳、口内に白い斑点。全身に赤い発疹が出る。	解熱した後3日を経過するまで。
* 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16～18日	飛沫感染 接触感染	耳下腺 (耳たぶの下) の腫れと痛みが主症状。	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
* 風疹 (三日はしか)	16～18日	飛沫感染 接触感染	発熱、全身に淡紅色の発疹、首や耳後部のリンパ節が腫れる。	発疹が消失するまで。
* 水痘 (みずぼうそう)	14～16日	空気感染 飛沫感染 接触感染	発疹が紅斑、水疱、膿疱、かさぶたの順に変化する。発熱しない例もある。	すべての発疹が、かさぶたになるまで。
* 咽頭結膜熱 (プール熱)	2～14日	接触感染 飛沫感染	発熱、咽頭炎、結膜炎が主症状。	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消失した後2日を経過するまで。
* 流行性角結膜炎 (はやり目)	2～14日	接触感染 飛沫感染	目の充血、まぶたが腫れる、異物感、涙、目やになど。	感染のおそれがないと医師が認めるまで。ただし、回復後も便中にウイルスが排出されるので、手洗いを励行する。

・その他の代表的な感染症

* 溶連菌感染症	2～5日	飛沫感染 接触感染	発熱、咽頭痛、莓舌、全身に細かい鮮紅色の発疹がでる。	適切な抗菌薬による治療開始後24時間以上経過し、全身状態良好と医師が判断するまで。
* 手足口病	3～6日	経口感染 飛沫感染 接触感染	発熱、手、足、口の中、お尻などに水疱ができる。	発熱後1日以上経過し、普段の食事がとれて医師が全身状態良好と判断するまで。
* ヘルパンギーナ	3～6日	経口感染 飛沫感染 接触感染	突然の高熱、咽頭痛。咽頭に赤い発疹がみられ、水疱となり、間もなく潰瘍となる。	ただし、回復後も長期間、便中にウイルスが排泄され、不顕性感染も多いので、手洗いを励行する。
* 伝染性紅斑 (りんご病)	4～14日	飛沫感染	風邪症状後に頬に紅斑が出る。手足にもレース状、網目状の紅斑が出る。	医師が全身状態良好と判断すれば発疹のみでは登園可。感染するのは風邪症状出現から発疹出現まで。
* マイコプラズマ肺炎	2～3週	飛沫感染	主な症状は咳。徐々に激しくなり、数週間に及び。発熱、頭痛を伴い中耳炎など重症化することもある。	発熱や激しい咳が治まるまで。
* RSウイルス感染症	4～6日	飛沫感染 接触感染	呼吸器感染症で乳幼児期に初感染した場合の症状が重く、特に生後6ヵ月未満の乳児では重症な呼吸器症状を生じ、入院管理が必要になる場合もある。	呼吸器症状が消失し、全身状態が良好になるまで。
* 感染性胃腸炎 (ウイルス性胃腸炎・流行性嘔吐下痢症)	1～3日	飛沫感染 経口感染	嘔吐と下痢が主症状である。下痢便が白くなることがある。時に発熱を伴う。	症状がある間が主なウイルス排泄期間。嘔吐、下痢が治まり、普段の食事がとれ、主治医が全身状態良好と判断するまで。
伝染性軟属腫 (水いぼ)	2～7週	接触感染 (直接・間接)	いぼが体幹や手足にできる。いぼ内容物が感染源。自然治癒に数年かかることがある。	出席停止の必要なし。いぼを衣類や包帯、絆創膏などで覆い、他児への感染を防ぐ。タオル、浮輪などの共用を避け、プール後シャワーでよく洗う。
伝染性膿痂疹 (とびひ)	2～10日	接触感染	紅斑を伴う水疱や膿疱が破れて、びらん、かさぶたをつくる。かゆみでこするとところに広がる。	出席停止の必要なし。病変部を触らないよう覆う。タオルなどの共用を避ける。治るまでプールは控える。

潜伏期間、感染経路、主要症状は、めやすとしてください。詳細は主治医に確認してください。